

# 「さんか・さろん」ニュース

5月15日開催「ファストな政局を嘆く」

講師：星 浩さん  
(TBS「NEWS23」メインキャスター)

星さんは福島県出身、東京大学卒、朝日新聞に長く、2016年からキャスターに。気さくなお人柄。ゆったり、しかし深みある政局の雑感をうかがうことができました。

.....

## ■トランプの読み違いを二つ

私の担当している分野は、政治外交の分野です。駆け足でお話をさせてもらおうと思います。アメリカ大統領選挙。トランプは大接戦に連日お金も投入して勝ち抜いた。これは一体どういうことなのかなと思った。

オバマ政権の8年間は、グローバル化の被害を受けた人たちの、大統領に対する怨念、憎しみのようなものがどんどん蓄積されていった。グローバル化の中で起きてきたのは産業構造の変化。やはり中国のものが大量に入ってきて、職を失う。給料が下がる。それから物ですね。あと、人。メキシコ、南アメリカからどんどん移民が入ってきた。仕事を失うということですね。

対して民主党の8年間の政権は、リベラルな政策で、移民に対しては非常に寛容な政策をやっている、と。オバマ批判がヒラリー批判につながっていた。トランプがそこは非常に目の付け所が良くて、そういう政治をやっていたのは「ワシントンのエスタブリッシュメントのやつらや、連邦議会の議員だとか官僚だとかメディアだ」「メディアがオバマをよいしょしてこういう大きい政府BIG Governmentを作っていたんだ」と攻撃した。

マスコミの予測は2回間違ってると思うんです。一つは選挙の予測をもちろん間違えた。もう一つ、さすがのトランプも大統領になればもうちょっとマシになるんじゃないかという予測をみんな立ててたんですね。

昔のレーガンがそうだった。レーガンも映画俳優出身でいろんないい加減なことを言っていたけれど、結局は共和党のスタッフをうまく使ってなかなか良い政治をや



ったと。小さい政府をやったという評価なんです。

トランプもそこはうまくやるだろうと思いきや、全然そうはならないですね。次々とトランプ流の政策を打ち出してきました。移民を規制する。規制すればアメリカのハンバーガー屋で働くメキシコ人がいなくなって、アメリカ人が働けば賃金が上がってハンバーグの価格が高くなる。苦しむのはトランプさんを支持したプアホワイトな人達でしょ、というのは理屈としては成り立つんだけれども、トランプは「そんなことは関係ない」。

パリ協定も然り。これは、長い目で見ればアメリカにとって一番プラスがあるんですけども、そんなものは知ったこっちゃないと。TPPも基本的にアメリカに益することは多いんですけどもそれもやらない。

11月の中間選挙でこのままいくとかなり苦戦ということで、混乱の極みの状況になっている、その一つの表れとして起きてるのが、米朝の首脳会談です。

善意で考えると、金正恩は、実はそれほど馬鹿ではない。北朝鮮はこのまま行ったらもう立ち行かない、と。経済も中国とか韓国に比べると遅れているし、何らかの形で中国的な改革開放の国に変えるしかないだろうと。そのために一番高いカードを作らなければ・・と、核実験もやってICBMというアメリカに届くミサイルも開発した。

アメリカに喉元にナイフを突きつけるところから交渉しないと成果はないとギリギリのどこまでやって、今年に入ってから急展開で交渉に入ってきた。

北朝鮮が改革開放の国になれば、東アジアにとっても朗報であり、相当注意深く見て行かなくちゃいけません。金正恩は、アメリカを騙してる。とりあえず核兵器20発のかなりの部分を隠し、少しずつアメリカに譲歩して、制裁解除とか経済援助とかを手にしていくのか。



## ■日本は北朝鮮へと動けるか

北朝鮮は「サラミ外交」といわれる。少しずつサラミを切っただけから譲歩を引き出す。英語でもサラミアプローチと言うらしい。この辺は見極める必要があると思いますが、いずれにしても非常に大きな転換期になることは確かです。ここは日本にとっても難しい局面です。

安倍さんは今まで圧力一辺倒で行ってきてましたけれども、トランプにちょっと梯子を外されました。今や南北朝鮮と中国、アメリカの4カ国で回してる。明らかに蚊帳の外になってる。最終的に決着点は、北朝鮮がアメリカと国交を回復して国交正常化して停戦。1953年に終わった南北の戦争を終わらせるけれども、日本は終わらないですね。なぜかと言うと、アメリカは北朝鮮にお金を払う義理はない。韓国はちょっとは助けるでしょうけれどもそんなお金はない。中国はまして払うつもりはない。日本が払う。

日本は1965年の日本と韓国との合意がありまして、韓国に当時の3億ドルの無償援助、お金をあげて2億ドルの借入金を出して、「過去の話はこれでおしまい」と。テレビで解説の人が賠償と言っているんですけども、賠償ではないんですね。日本は韓国と戦争はしてませんので、これは「戦争状態という植民地支配を終わらせて、それに対する経済協力を3億ドルの無償と2億ドルの有償という形で終わらせた」ということです。

おそらく今のお金に換算すれば、北に対して、同額、1兆5000億ぐらいのお金をローンなのか、ギフト、無償で貸すのかも含めて払わなくちゃいけないんです。韓国に対してそういう決着をしますので、同等なことはやらなくちゃいけない。つまり日本はまだ北朝鮮に対しては戦争の精算をしていないんですね。35年における植民

地支配の精算をしてません。日本の方はあまり覚えていないかもしれませんが、北朝鮮は絶対それをあてにしますので、最終的には日本がお金を払って終わる。

安倍さんが「拉致問題を解決しない限りお金を払わない」とずっと言い続けていきますと、日本以外の他の国は全部北朝鮮と国交を回復する、観光客は行く、支援開発はする、経済交流はする。という中で、日本だけが全く動かないということになるのかどうか。これは大変なテーマになっていて、果たして安倍さんでやりきれぬかどうか。ちょっと難しいんじゃないかなと思います。

## ■安倍体質の「もり・かけ」問題

目を永田町の方に転じると、もりかけ問題とか……。記憶にあるとかないとかという話になってはいますが、この問題はやっぱり基本にあるのは安倍政権の体質対応なんですね。森友問題であんまりムキにならずに、「うちの女房がやや常識外れのところがあるので、もしおかしなことをやっていたらそこでちゃんと是正させる」と言っていれば、そんなに大問題にならないんですけども、「ちょっとでも関与してれば国会議員も辞める」と。官僚はみんなビクついてひどい結果になって、文書の改ざんというところまで至るわけでありました。

それから加計問題。そこを安倍さんの理屈は、便宜を図ってないんだから悪くないんだと言うんですけども、世の中の人から見ればそれはそうじゃないでしょう。

## ■経済産業省内閣が摩擦を

官僚は、やはり人事権を握られている。官僚は財務省とか外務省とか、同期でキャリア組というのは25人ぐらいですね。25人のうち局長にたどり着けるのが5、6人。誰が局長になるのか事務次官になるのか、人の能力の差というのは、そういうレベルの人ですとそれほどありませんから、「なんとかさんに取り入った」とか、歪んでくる。それでも、かつての自民党政権は、それなりにチェックアンドバランスが効いてました。

しかし今、600人の審議官以上の人事関係で、実際に動かしてるのは菅さんという官房長官ですね。菅さん、私も当選した頃からずっと付き合ってる人ですけども、明らかにはっきりしてきたことは人相が悪くなったとい

うこと。やっぱりこれだけの権力を握ってますと。昔はもうちょっと秋田の出身の田舎のおじさんの雰囲気があったんですけども・・・。

それからもう一つ。実は日本の社会は、例えば社会保障の設計だとか、税金の制度設計は非常に緻密にできて、それなりに公平公正に、透明度高くできてるんですけども、それを設計してきたのは官僚の世界なんです。その中心の中心が財務省、大蔵省。政権というのは、だいたい大蔵省、財務省が司令塔になって、その上に乗っかってくるのがこれまででした。

安倍さんはちょっと変わってまして、大蔵省、財務省はずっと抵抗勢力だ、と。財務省に対して敵意と言いますか、反発を持ってるんですね。対抗する形で安倍さんが非常に重用してるのが経済産業省、昔の通産省です。ある意味、経済産業省内閣なんですね。

経済産業省が政策を訴えるのは、結構なことだと思うんですが、実はいろんなところに摩擦を起こしている。例えば農協の改革。経済産業省が後ろで操ってると。それから例えば北方領土の開発。共同経済区域というのを経済産業省の人が中心となってやってる。文部科学省では獣医学部に対してそう簡単に行きませんよと言うと、「総理の意向に反する」ということになります。最近では総務省では放送法。テレビは中立公正にやらなくちゃいけないという放送法第4条というのがあるんですけども、それを見直して撤廃して全部フリーに自由にしろと。これも経済産業省がペーパーを書いて、規制を改革なくせということでやってまして、どんどん他の役所に経済産業省の人を使って切り込んでいくわけです。

## ■来年の政治は大混乱に

最後に政局の話。9月には総裁選挙があります。私は三選の可能性は3、4割ぐらいかなと思ってます。支持しないという人が6割ぐらいの時もあって、三選するのはなかなかきつんじゃないか、と。安倍さんの戦略は意外と単純でして、地方票を積み上げるためにあちらへ行ったり、こちらへ行ったり・・・。

もう一つ。来年は、だれが総裁になっても、おそらく日本の政治は大混乱になると思われるんです。

来年の6月、夏に参議院選挙がありまして、おそらく

自民党は負ける選挙なんですね。これは必ず負ける。なぜか、4つ5つぐらい自民党が負ける要因が重なりまして、惑星直列みたいな形になっております。

一つ。参議院は6年前の改選で、安倍さんが再登板した直後で大変な人気、自民党は圧勝するんですね。自民党と公明党で77議席くらい取りました。その人たちが改選で、明らかにその基準よりも下回るとというのがひとつ。

もう一つ。来年は4月に統一地方選挙があります。4年に1回。参議院選挙は3年に1回なんですけど、12年に1回重なります。猪年の参議院選挙は自民党は負けるというジンクスがありますね。なぜか。自民党の人は自分の選挙が終わったら参議院選挙なんか知ったこっちゃないということで、ほとんど選挙運動を手伝わない。統一地方選挙の後の参議院選挙は自民党は苦戦する。

それからもう一つ。6年前の安倍さんが勝利した時は、実は共産党も各選挙区で立ててきたんですが、共産党は3年前から、勝ち目のない選挙区では立てません。で、野党候補を応援しますという路線に転じまして、今度もおそらく共産党の票は、基本的に野党候補、野党統一候補に乗っかってくる、来年の参議院選挙で誰が自民党の総裁総理大臣をやっている、相当の苦戦で、これが政治の混乱の幕開けになるのかなという気がします。

いずれにしても世の中は非常に速いスピード、スケールで変わっていますので、これをやはり日本もきちんと見極めて、分析して、どういうふうについていくのか。

少子高齢化と財政の問題という非常に根の深い問題を抱えています。安倍さん、アベノミクスは根拠のない楽観主義でやってきたんですけども、実はそうはいきませんよと思うところであります。



.....  
お話は広範囲に広がり、笑いの多い楽しい「さろん」となりました。(事務局・野口智子記)